

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門，若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：交通インフラ運営におけるコーディネーション	
日付： 6 月 7 日 (土)曜日，セッション時間： 13:00 ~ 14:30	
オーガナイザー・司会者名(所属)：宇野伸宏，松島格也	
討 議 内 容	セッション全体：
	(発表番号) 発表者名 (所属)：京都大学 江尻良 ・オープンアクセスで複数の鉄道会社が参画してきた場合時間帯の割り当てはどうするのか？ 英では技術力を加味．オークション形式もあるが強力な事業者が勝ってしまう． ・独占の影響は？ 旅客輸送部門では競争できている．貨物輸送ではやはり JR が強かった． ・インフラ運営は”民”でも行えるはず．”赤字だから公”というばかりでいいのか？
	(発表番号) 発表者名 (所属)：阪神高速道路 荒川貴之 ・迂回路情報は JARTIC から提供されるのか？ 阪神高速内での迂回路情報は提供している．ユーザーは過剰反応する． ・経費は自社で賄うのか，公益性をもつ事業には税金が適用できるが利用しないのか？ 自社で工面するつもりである． ・ETC データと個人のマッチングは可能か？ 技術的には可能．但し，ユーザーとの誓約時に個人特定はしないことにしている． ・サービスとして情報提供なのか，交通制御としての情報提供なのか．提供の規模は？ サービスとして．現在は阪高ユーザーの一部であるが将来的には商売としていきたい．
	(発表番号) 発表者名 (所属)：東北大学 奥村誠 ・二輪車の定式化において駐輪場内部での時間損失なども含めた複雑な条件設定をする理由は？ 混雑率を使えるのは駐輪場しかないから． ・問題が解けたとして，どのような解が予想されるか？ ・バスを用いないのは金額や時間的利便性では？またバスの経路上に住んでいない学生は？ 学生専用の定期券を提供するなどのインセンティブを想定 ・工事用大型車の混入率制御可能性は？ 一時間刻みくらいなら可能であろう